

平成27年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立石井小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成27年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

平成27年4月21日(火)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問紙）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問紙）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	126人	算数	126人	理科	127人
第5学年	国語	93人	算数	93人	理科	95人

5 留意事項

(1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。

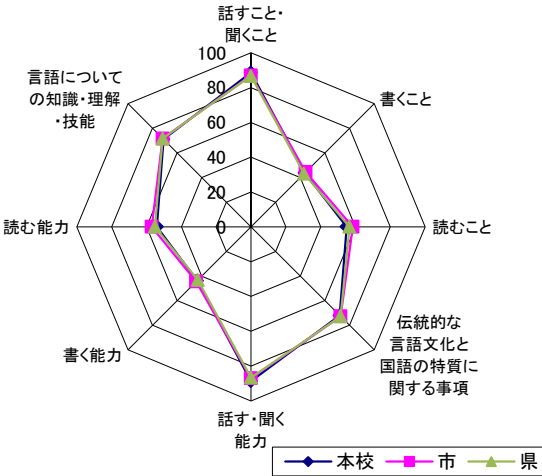
(2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。

(3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立石井小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	88.6	87.0	86.7
	書くこと	43.8	44.5	43.1
	読むこと	54.9	58.5	56.6
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	72.0	72.8	72.8
観点	話す・聞く能力	88.6	87.0	86.7
	書く能力	43.8	44.5	43.1
	読む能力	54.0	57.0	55.1
	言語についての知識・理解・技能	71.1	71.7	71.7



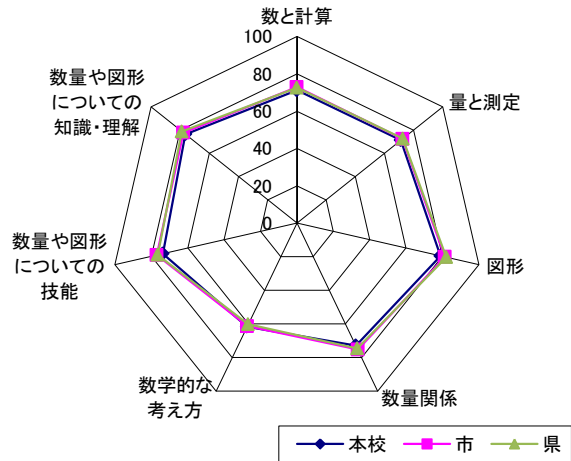
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○話の中心に気を付けて聞いたり、互いの考えの共通点や相違点を整理して聞いたりすることができる。	・引き続き、毎朝の1分間スピーチやことばの時間と連携させながら指導していく。
書くこと	○報告書の構成を理解している。 ●お礼の手紙を、適切な順序と言葉づかいに書き直すことに課題がある。	・読み手に伝えたいことは何かを明確にした手紙を、様々な機会を利用して書くようにする。
読むこと	●説明文の内容の理解に関する正答率が低い。特に、目的や必要に応じて、中心となる語や文をとらえることが苦手な児童が多い。 ●物語文では、叙述を基に登場人物の気持ちを想像して読むことや場面の移り変わりを読むことができない。	・説明文や物語文を学習する際に、言葉の意味を確認しながら読むようにさせる。また、主語や述語、接続詞に気をつけながら、文章に即して、場面や段落の様子を想像しながら読んでいけるようにさせる。 ・家庭学習で音読を繰り返し行うように声を掛ける。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●漢字の読み書きの正答率のほとんどが県よりも低い。 ○日常使われている簡単な単語の、ローマ字による書き方を理解している児童が多い。	・朝の学習や宿題などで繰り返し学習し、身に付けさせるようにする。

宇都宮市立石井小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	71.2	72.9	72.6
	量と測定	71.3	72.4	72.6
	図形	78.9	81.4	82.1
	数量関係	72.8	75.2	74.6
観点	数学的な考え方	61.6	61.3	60.2
	数量や図形についての技能	73.7	77.0	76.5
	数量や図形についての知識・理解	76.4	77.8	78.8



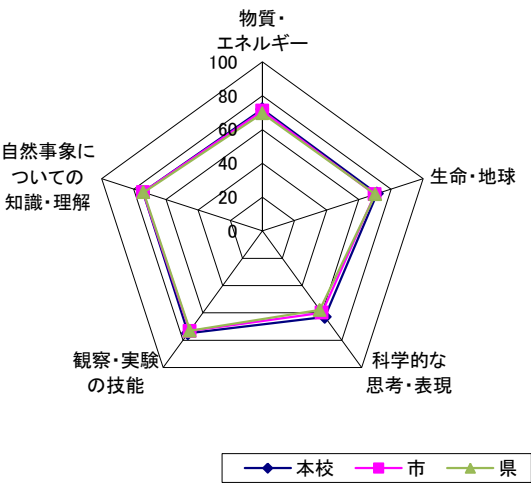
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	●全体的に県の正答率を下回っている。3位数×1位数＝4位数、2位数÷1位数＝1位数(あまりあり)、整数－小数の計算の正答率が県より7ポイント以上低い。 ○代金の合計から判断をし、説明する問題では、県の正答率を10ポイント以上上回ったが、十分とは言えない。 ○小数の仕組みの理解が十分である。	・朝の学習や家庭学習などで繰り返し計算練習に取り組むようにさせる。
量と測定	●時間の差を求めて比較する問題では、正答率が低かった。 ○時間の分と秒の単位を理解している。 ●身近にあるものの重さを推察することができない児童が多い。	・時間や物の重さや長さなど、身近にあるものを使って推察する方法を提示するなど、日常生活の中で意識的に取り上げ指導していくようにする。
図形	○二等辺三角形を作図することができる。 ●球の半径と直径の関係の理解が十分でない児童がいる。	・球を半分に割った表面が円になることを再確認し、半径や直径を図示することで理解を図っていく。
数量関係	○棒グラフに関して読み取る力が十分ある。 ●□を使った乗法の式にあった文章問題を選ぶことができない児童が多い。	・図や式に表された事柄を、説明する活動を多く取り入れるようにする。その際「はじめに」「つぎに」「よって」など順序を示す言葉を意識的に用いるようにし、繰り返し指導する。

宇都宮市立石井小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	72.0	71.1	69.6
	生命・地球	71.3	70.0	70.3
観点	科学的な思考・表現	62.9	59.8	57.8
	観察・実験の技能	74.9	73.2	73.0
	自然事象についての知識・理解	74.3	74.3	74.0



★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○ものは形を変えても重さは変わらないことの理解は十分である。 ●物の体積は同じでも、種類によって重さが違うことの説明ができない児童が多い。 ○虫眼鏡の安全な使い方や虫眼鏡で集めた光の明るさやあたたかさの違いの理解が十分ある。 ●鏡で反射した日光を重ねた部分を比べて、同じ明るさの部分指摘することができない児童が多い。 ○電気を通すものと通さない物を理解し、豆電球のあかりのつき方を説明することと、磁石の性質を説明する正答率が県を大きく上回ったが十分であるとは言えない。	・実験や観察を行う際、予想や結果からの考察を丁寧に言うようにする。用語についても、しっかり正しく理解し使えるよう、繰り返し指導していく。 ・実験の過程や結果などを、ノートやワークシートに言葉や図などで表現する時間を確保し、科学的現象をしっかりと理解させるようにする。
生命・地球	○モンシロチョウなどの昆虫の変態の過程と植物のからだのつくりの理解は十分である。 ●植物の育ち方の順序、昆虫が特定の場所にいる理由の説明、方位磁針の正しい使い方、1日の太陽の動きの理解の正答率が低い。	・虫めがねの使い方は個人の感覚で使用していることがあるため、教師が手本を示して理解させ、全体で練習した後身に付いていない児童に個別に指導していく。 ・方位磁針は、N極が指し示す方向が北になることを確認し、実際にN極に「北」を合わせる活動を繰り返し行って技能を身に付けさせる。 ・植物のつくりや太陽の動きの観察では、丁寧に観察を進めるとともに、身近に起きる科学現象としての驚きや疑問などを大切にして、継続的に意識付けを図っていく。

宇都宮市立石井小学校 第4学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている」と回答した児童が95%以上を占め、「宿題が自分のためになっている」という意識も高い。

○「宿題の他に自分で考えた勉強をしている」と回答した児童が県平均を10ポイント以上上回っており、家庭学習が習慣化できている児童が多い。このような意識や家庭学習への取り組みが、基礎的な学習内容の定着につながっていると考えられる。今後とも、家庭学習の習慣化に努めていくようにしたい。

○90%以上の児童が「物事をやり遂げてうれしかったことがある」と回答し、また、「人と話すことは楽しい」と回答していることから、学び合うよさを体験することができている。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意だ」と回答した児童の割合が58%程度であるが、「友だちの話や意見を最後まで聞くことができている」と回答した児童の割合は87%である。聞くことはできるが話すことは苦手だと感じている傾向が強い様子がうかがえる。

●「難しいことでも失敗をおそれないで挑戦している」への肯定的回答率は市平均より8ポイント低く、71%である。

●朝食を食べている割合は96%であるが、4%の児童が何も食べずに登校していることを考えると、気力や体力・学習効率を考えると100%を目指したい。また、「早寝・早起きを心がけている」「好き嫌いをしないで食べている」などの質問への肯定的回答率が低く、望ましい基本的な生活習慣が十分に身に付いていない児童がみられる。

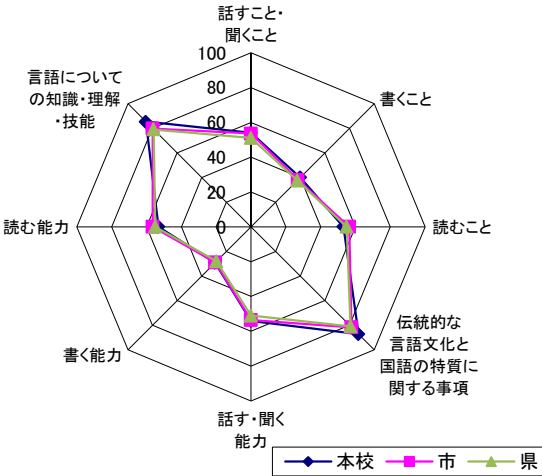
○教科の内容はよくわかると答えている児童がほぼ90%いる。特に理科が97.6%と高く、内容の理解度も高い。

●教科等への興味はあまり高くなく、指示されたことへの取り組みはよくできるが、主体的に考えることを苦手とする傾向がある。

宇都宮市立石井小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	54.1	53.6	51.0
	書くこと	40.0	38.1	37.6
	読むこと	53.1	56.4	55.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	87.3	81.6	80.9
観点	話す・聞く能力	54.1	53.6	51.0
	書く能力	29.2	29.0	28.0
	読む能力	53.1	56.4	55.0
	言語についての知識・理解・技能	85.4	79.9	79.1



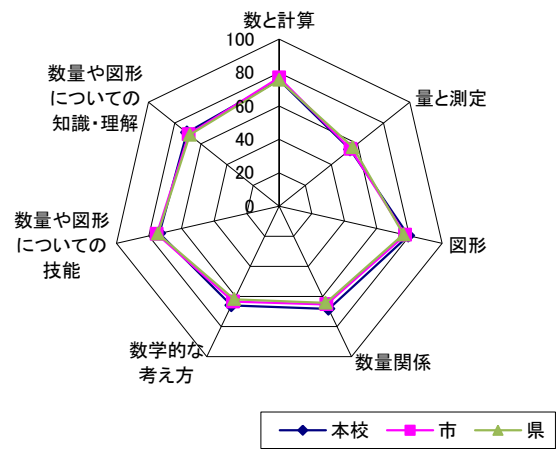
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	○発表するために調べたことの要点をまとめることがよくできている。 ●司会の話し合いの進め方の工夫についての理解は、正答率が県の平均を上回っているものの、理解がまだ十分でない児童がいる。	・話し合いのポイントを明確にするために、司会が出された意見をまとめて確認するなどの工夫が必要であることを、学級活動などの実際の話し合い活動の場を通して指導していく。
書くこと	●与えられたテーマに対する記事を、条件に合わせて書くことの正答率は県の平均を上回っているものの、正答率が低く課題がある。	・自分の意見を決められた段落構成で書くことについては、段落ごとの役割(「理由」「具体例」「まとめ」)や分けて書くことのよさを理解させ、様々な機会を利用して意図的に書くようにさせる。
読むこと	●与えられたテーマに対する記事を、条件に合わせて書くことの正答率は県の平均を上回っているものの、正答率が低く課題がある。	・物語や説明文を学習する際に、言葉の意味を確認し、主語・述語や接続詞に気を付け、中心になる事柄や場面の様子を自分の言葉でまとめるなどの活動を取り入れるようにする。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	●与えられたテーマに対する記事を、条件に合わせて書くことの正答率は県の平均を上回っているものの、正答率が低く課題がある。	・正答率の高い領域であるが、個人差も大きい部分でもあるので、個に応じた指導を引き続きしていく。

宇都宮市立石井小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	75.5	77.0	75.6
	量と測定	54.4	54.8	56.5
	図形	79.4	77.4	76.3
	数量関係	68.3	65.3	64.3
観点	数学的な考え方	66.0	63.5	61.9
	数量や図形についての技能	73.6	75.2	74.5
	数量や図形についての知識・理解	70.6	69.1	68.4



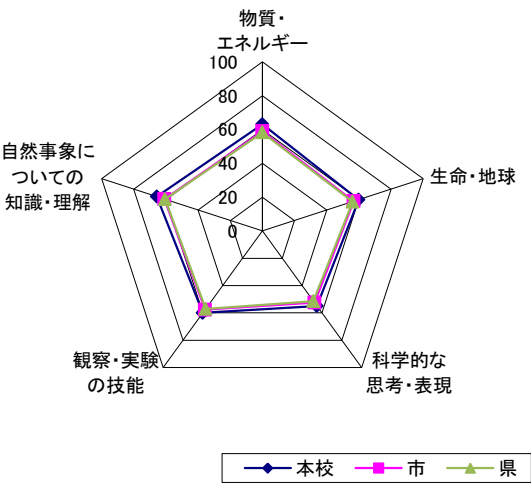
★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	○小数の相対的な大きさの理解、数直線上に示された分数の表し方の理解が高い。 ●小数÷整数の計算の正答率が低い。 ●命数法で書かれた数を記数法で表すことの正答率が低い。	・大きな数が問題などで出てくる際、声に出して読んだり、読み方を漢字で書いたりし、機会があるたびに復習をするようにさせる。 ・朝の学習の時間を利用し、計算練習を繰り返し行うようにする。
量と測定	●面積の㎡とcm²の単位の関係の理解が低い。 ●身近にあるものの面積を推測することに課題がある。 ●正方形の面積を求める問題の正答率が低い。	・身の回りにある物のおよその長さや面積・体積など、比べたり図ったりする活動を意識して取り入れ、量の感覚を身に付けさせるようにする。 ・1㎡が10000cm²であることを実際の大きさの紙を使って再確認するようにする。
図形	○ひし形の作図がよくできている。 ○立方体の見取り図から、平行な辺が分かるの正答率が高い。 ●直方体の展開図の理解が県の正答率と比べると低い。	・展開図から実際に立体を組み立てる活動などを繰り返し行い、平面と立体の違いの感覚を身に付けさせるようにする。
数量関係	○「文章問題を解くために四則混合の式を立式し、その式から正しい答えを求めることができる。」の正答率が高い。 ○伴って変わる二つの数量関係の理解を式に表すことがよくできている。 ●2つの折れ線グラフを比べて、正しくないことを説明することの正答率が30%を下回った。	・「はじめに」「次に」「よって」などの言葉を使いながら筋道を立てて考えたり、言葉で表現したりする活動を随時取り入れるようにする。

宇都宮市立石井小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	63.2	59.0	58.3
	生命・地球	59.9	56.8	56.1
観点	科学的な思考・表現	54.9	52.5	51.4
	観察・実験の技能	60.0	57.6	57.0
	自然事象についての知識・理解	65.7	61.0	60.6



★指導の工夫と改善 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	○水が対流しながら温まることや金属の温まり方の関する理解が高い。 ○閉じ込められた空気と水が押し縮められた時の変化について理解が高い。 ●空気を温めると体積が増加することを、実験の結果から説明することができない児童が多い。 ●電気のはたらきに関する理解が低い。乾電池の直列つなぎと並列つなぎに関わる問題の正答率が低い。また、光の強さと光電池の電気を起こすはたらきの関係から、実験結果を推測することの正答率も県を下回った。	・実験や観察を行う際、予想や結果からの考察を丁寧に言うようにする。用語についても、しっかり正しく理解し使えるよう、繰り返し指導していく。 ・5年次の学習で、空気や水、電気の性質などが既習事項として出てくる際、しっかり確認する。
生命・地球	○グラフから、ヘチマの茎の伸びや1日の気温の変化の様子などを読み取ることはよくできる。 ○星や星座は時刻とともに見える位置が変わるが、並び方は変わらないことはよく理解している。 ●グラフから、気温とヘチマの茎の伸びとの関係を説明することができない児童が多い。 ●日なたに置いたビーカーのふたの内側に、水滴がついた理由を説明できる児童が少なかった。	・身の回りで起きている事象であるので、自然現象で不思議に思ったことなどを自主学習で調べるなどの活動を奨励していく。 ・既習事項として出てくる際、しっかり確認する。

宇都宮市立石井小学校 第5学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている」と回答した児童が95%以上を占め、「宿題が自分のためになっている」という意識も高い。

○「家庭で、学校の授業の復習をしている」「宿題の他に自分で考えた勉強をしている」と回答した児童が県平均をそれぞれ7ポイント以上上回っており、家庭学習が習慣化できている児童が多い。このような意識や家庭学習への取り組みが、基礎的な学習内容の定着につながっていると考えられる。今後とも、家庭学習の習慣化に努めていくようにしたい。

○「話し合うときに友達の話や意見を最後まで聞くことができている」と回答した児童が93%以上で、聞く態度が身に付いている。

○95%以上の児童が「物事をやり遂げてうれしかったことがある」と回答し、また、「人と話すことは楽しい」と回答していることから、学び合うよさを体験することができている。

●「友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意だ」と回答した児童の割合が50%程度と低く、聞くことはできるが話すことは苦手だと感じている傾向が強い様子がうかがえる。

●「難しい問題にであうと、やる気がでる」への肯定的回答率は50%程度と低く、基本を応用して解決しようという意欲が低い。

●朝食を食べている割合は93%であるが、7%の児童が何も食べずに登校していることを考えると、気力や体力・学習効率を考えると100%を目指したい。また、「早寝・早起きを心がけている」「好き嫌いをしないで食べている」などの質問への肯定的回答率が低く、望ましい基本的な生活習慣が十分に身に付いていない児童がみられる。

○「自分にはよいところがあると思う。」「自分のよさを人のために生かしたいと思う」「家の人と学校での出来事について話すことがある」の肯定回答率が88%を越えている。家庭で温かく子供を受け入れていることで、自己肯定感が育っていると考えら